



鎌ヶ谷市でも 再生エネルギーの街づくりを!

——むつざわ「ウエルネスタウン」——

“天然ガス(ヨウ素)コジェネ発電・ウエルネスタウン”の視察(2022年10月21日宮川後援会視察)。コロナ禍で集まることも出来ず、久しぶりに現場で見聞きが出来る多くのヒントをいただきました。

むつざわウエルネスタウン

人口 6817 人、農業の町・睦沢町が“街おこし”“子育て若者支援”“健幸まちづくり”の観点から地元の天然ガスを活用して『道の駅・温泉施設・災害拠点・賃貸住宅』をコンパクトな(2.7 ヘクタール)ウエルネスタウンとして建設。民間の資金とノウハウを使ったPFIによる 27 億円の事業です。

開業直後(2019 年)の台風による千葉県中の風害停電の中でもこのウエルネスタウンの 33 戸の住宅と道の駅は、停電 5 時間後には天然ガスのコジェネ発電を起動し電力供給が再開されたのです。

道の駅・温泉施設でシャワー無料開放、トイレ、携帯電話の充電と防災拠点の役割を十分に発揮しました。

「CHIBA むつざわエネルギー」による地元天然ガスのコジェネ 80KW×2 台と太陽光発電によって 33 戸の住宅・道の駅・温浴施設のすべての電気をまかなえています。

東電などの送電線を使わず、自営線として、しかも電柱はなくし、すべて域内は地中化。

ガスによる発電時の熱を利用してヨウ素がたくさん入っているカン水を暖めて温泉施設がつくられています。使用水は戻してヨウ素を取り出すとのこと。

外見上はどこにでもあるような道の駅ですが、地元の天然ガス・ヨウ素の入ったカン水を使った“地域分散型のエネルギーの街づくり”への歩みがウエルネスタウンで実行されていました。

コロナ禍もあり採算的にかなり厳しい状況とのこと。新たにオリーブからバージンオイルを取り出す作業も開始されていました。採算が取れるよう頑張してほしいものです。

何点か担当の方にお伺いしました。

Q、発電施設を更に拡大しないのか?…答え:「これ以上の計画はない」

Q、世界全体のヨウ素の 30%が日本で産出。そのうちの 80%=8000tが千葉県のこの地域で産出されている。日本はヨウ素 1tを 300 万円で輸出し、ヨウ素から作られるイソジンや造影剤など 1tを 2 億円で輸入している。地元のヨウ素をどう有効に活用していくのか?(千葉大と地元業者が共同研究しているが)…答え:「今後の課題です」と展望・ビジョンの説明がなくちょっと残念な回答でした。

睦沢町の小さな範囲でも再生エネルギーの街づくりは始まっているのです。鎌ヶ谷市でも、新鎌～市役所の地域でのコンパクトなスマートグリッドによる再生エネルギーの街づくりへ一歩を踏み出しましょう。



天然ガス発電機